

令和6年度小樽幼稚園評価

令和7年3月

【経営目標】 自ら考える力を育み、共に育ちあう「笑顔いっぱいの幼稚園」をつくる

(1) 心豊かでたくましい子どもの育成

- ・「まことの保育」を推進する。 ・子どもの自立を促す。 ・子どもの主体的な活動を展開できる保育を推進する。
- ・基本的な生活習慣や生活リズムの定着を図る。 ・つながりのある活動を展開する。

(2) 安全・安心を基盤とした園生活の充実

- ・教育環境の整備。 ・防災、防犯体制の充実。 ・健康・安全面に配慮した指導の充実。

(3) 保護者や地域社会との連携の強化

- ・地域の環境や人材を活かした教育の推進。 ・情報発信、情報交換の積極的な推進。
- ・幼稚園教育で大切にしていることを伝え、家庭の協力を求める。 ・幼稚園評価による保護者や地域の声を真摯に受け止め、教育の充実を図る。

(4) 意欲的に学び、相互啓発する教職員の育成

- ・教師の指導力の向上。 ・教育課題を共有し、互いに協力し合える関係をつくる ・時間外勤務の縮減に取り組み、心身の健康に努める
- ・幼児期の終わりまでに育て欲しい「10の姿」につながる指導を積み重ねる。

◆評価方法 1学期自己評価（7月20日実施）、2学期自己評価（12月20日実施）、保護者評価（11月29日～12月6日で実施）を基に評価（各評価でAが4点、Bが3点、Cが2点、Dが1点とし平均を出している。）

◆評価基準

【A 十分達成 3.25以上 B おおむね達成 3.25未満～2.5以上 C 取り組まれているが不十分 2.5未満～1.75以上 D 改善を要する 1.75未満】

中期経営目標	短期経営目標	努力指標	評価結果	成果・課題
(1) 心豊かでたくましい子どもの育成	・「まことの保育」の推進	・指導者が、めざす子どもの姿を理解し、子どもに伝えることができるようにする。	A	・まことの保育を意識し、互いに尊重することを子どもに伝える姿勢が見られている。
	・子どもの自立を促す	・子どもの自立を促し、自分でできたという達成感を味わえるようにする。	A	・子どもたちが自主的に動く姿が多く見られてきた。
	・基本的な生活習慣や生活リズムの定着を図る	・幼稚園生活のリズムの定着に努める	A	・幼稚園の生活リズムが身に付いてきた。
		・「あいさつ、あんぜん、あとしまつ」の3つがしっかり身に付くよう指導する。	A	・基本的な生活習慣が身に付いてきている。
	・主体的活動を展開できる保育の推進	・「与えて、させて、急がせる」指導から、「聞いて、助けて、見守る」指導へ転換する。	A	・主体的な活動を意識した保育が多く見られてきている。
	・つながりのある活動を展開する	・1年間のテーマを決め、創造性、発展性、連続性のある活動をする。	A	・1年間の見通しを持った活動が行われ、子どもの成長が見られた。
(2) 安全・安心を基盤とした園生活	・教育環境の整備	・子どもが「おもしろい」「やってみたい」と思うような環境をつくる。	A	・新発想で保育活動を変えようとする姿が見られた。 ・保育室の環境整備については、さらに意識化が必要である。
		・保育室の清潔で安全な環境を維持する。	B	
	・防災、防犯体制の充実	・避難訓練や安全指導を確実に実施する。	A	・消防署員から避難訓練の高い評価をいただいた。 ・教師の危機意識の高まりがみられた。 ・危機管理マニュアルを全体で確認し、いざという時に備えている。
		・玄関オートロックの徹底	A	
		・危機管理マニュアルに基づく対応ができる。	A	

	<ul style="list-style-type: none"> 健康・安全面に配慮した指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 日常点検表に基づく安全点検の実施を毎日行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の安全点検意識が高まっている。 園児の体調面には細心の注意を払っており、保護者との連携もできている。
		<ul style="list-style-type: none"> 登園時の視診の徹底、活動中の園児の体調面に配慮する。 	A	
(3) 保護者や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境や人材を活かした教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や施設連携し、教育活動の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 吹きガラス、地引網、フェリー船内見学、運河クルーズ等地域と連携し活動している。 保護者とのコミュニケーションは十分とれている。 配布物を忘れることが少なくなっている。 事故が発生した場合等、保護者への対応や連絡は迅速にできていた。 HPで毎日子どもたちの活動の様子を発信している。 家庭と子どもの情報を共有し、子に応じた保育に努めている。
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と情報交換を積極的に行い意思疎通を図る。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 保護者への連絡や配布物は忘れることなく行う。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 事故や問題が起きた場合、保護者への説明や対応を迅速に行う。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信、情報交換、情報活用の積極的な推進 	<ul style="list-style-type: none"> 園や子どもたちの様子を積極的に発信する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長課題を家庭と共有する。 	A	
(4) 意欲的に学び相互啓発する教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教師の指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 専門知識や技能の習得に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修会への参加、専門的知識や技能の習得により積極的に努める必要がある。 保育者がやりたいと思う活動が実現できている。
		<ul style="list-style-type: none"> 創意工夫ある教育活動を展開する。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 協働体制の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 報・連・相を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡、相談の徹底をさらに続ける必要がある。 教師間の打ち合わせが活発に行われるようになった。 職員同士で声を掛け合う姿
		<ul style="list-style-type: none"> 教師間の打ち合わせをしっかり行う。 	A	

		・同僚に気軽に相談できる。	A	<p>が多くなった。</p> <p>・創意工夫しようとする姿勢が多く見られている。</p>
		・新たな発想で教育活動を工夫する。	B	
	・時間外勤務の縮減	・18時までには退勤する。	A	<p>・定時退勤は守られていた。</p> <p>・教育活動の見直しを進めている。</p>
		・教育活動を見直し、保育者の負担軽減を図る。	B	
	・「10の姿」を考慮した指導	・「10の姿」を指導の際に考慮し、発達段階に応じた指導を積み重ねる。	A	<p>・小学校へのアプローチカリキュラムを作成した。</p> <p>・小学校との交流を積極的に行った。</p>

総合評価

- ・概ね良好の評価となった。保護者評価においては、全ての項目で十分達成となっている。
- ・仮園舎の生活ではあったが、保護者評価の意見で一番多かったのは「子どもが毎日楽しく幼稚園に通えた。」という声だった。また、「幼稚園のおかげで、できること、やってみたいことが増え、毎日が充実している。」という声も複数あった。これは、職員が子ども達一人一人に丁寧に接し、子ども達に満足感を与える指導が十分できていたことであると思う。
- ・職員の自己評価で低い項目は、「整理整頓」である。保育室はもとより、自己の机上の整理ができていない状況が見られる。整理整頓を意識づけていきたい。
- ・小学校との交流が活発化してきた。アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの整合性を図っていきたい。
- ・子どもたちがかけがえのない一人の人間として大切にされ、安心して自分の力を発揮できる幼稚園を創って行きたいと思っている。そのためには、常に職員が受容的・共感的に子どもたちと接し、子どもたちに自己決定の場を与え、自己存在感を高めていくことが求められるが、既にこのような関わりが多数見られ、子どもたちの成長が見られている。子ども園になっても継続していきたいと思う。

関係者評価委員会からの意見

- ◆6月25日(水)、関係者評価委員会において幼稚園評価について説明し意見を求めましたが特に意見はありませんでした。